

冒険しんぶん

2011/3/12

ピアノの発表会

第17版

発行・編集

ポコリーナ

ケンケン



今回のインタビューは

funofumo さんです。

funofumo さんは先日（2011年1月）にシヨパンの曲を演奏して下さいました。



「先日（1月の発表会）でのシヨパンのワルツは素敵でしたね！16分音符のアルペジオが綺麗にきまっていました。

いえいえ、なかなか指がまわらず・・・。

「おうちでも結構練習されているのですか？

仕事をしていると、なかなか家でピアノには触れられないですね（苦笑）。帰るとクターっとしてしまっ・・・今の住まいには電子ピアノしかないので、週に1、2回気分転換程度にスタジオで練習しています。

「お仕事はどんなことをされているのでしょうか？」

小学校の生徒や幼稚園児などの子供たちのために、芸術家を引き合わせるNPO法人に勤めています。

ダンスや演劇、音楽などの各分野のアーティストを都内の学校や幼稚園に派遣し、子供たちとア

ーティストさんとの交流の場を作るお手伝いをしています。

「そうなんですか、素敵なお仕事ですね！具体的にどんな流れで活動をされているのですか？」

小学校や幼稚園へ募集の案内をして、そこで決定した学校や園の先生にヒアリングして、どのようなワークシヨップにするのか、打ち合わせをします。その後内容に応じてアーティストさんを選び、再度実施のためのミーティングをします。

「訪問先に合ったワークシヨップにするんですね。



去年バリ島で買ったブレスレット

「そうですね。たとえば保育園だと身体表現の希望が多くその場合は、コンテンポラリーのダンサーの方によく依頼しています。

例えば先生からスキミングやペアワークを重視して欲しい、というリクエストがあったときは、二人組になって、一人は寝転んで海の波になり、もう一人がその波に乗ってみたり、宇宙遊泳の動きをしてみたり・・・と、ダンス

ーの方は色々なお題を考えてくれます。なかなか想像力豊かな面白いワークが多いです。

「小学校ではどんなワークシヨップがありましたか？」

小学校では、ある学校では学会の「走れメロス」の劇の演出の手伝いをアーティストさんがしたり、また子供たちと一緒にゼロからミュージカルを一緒に作っていたことがあります。

「プロのアーティストと創作活動ができるなんて羨ましいです。子供たちも楽しんで参加するのでは？」

もちろん楽しんでくれますよ！先生に後で感想をきくと普段あまり周りの輪に入っていない子供やコミュニケーションがうまくとれない子でも、ワークシヨップを通して周囲の子供と打ち解けるようになったり活発になったりするそうです。

「ただ楽しいだけではなく、情操教育にもなるんですね。」

そうですねですよ。

ですので続けてワークシヨップを行って欲しい、回数を増やして欲しいと言われることもあるのですが、ここ数年は沢山の応募があり、やはりワークシヨップを経験していない園や学校を優先する必要もあるので、一つの学校や園に集中して行うのは難しいですね。年間、保育園・幼稚園に関しては一つの園につき2日間、

小学校は多くて十日です。ただ、本当は継続して行う方が子どもへのアートの影響力がはつきりと見られるのでしょうか・・・

「外に出られることが多いとお聞きしましたが、設営をされるのですか？」

「アーティストさんが滞りなく授業できるように、体育館でひな壇を出したり毎回きちんと運営している記録をとるためにカメラなどで撮影したりします。三脚を持ち歩いたりするので結構重労働ですよ。」

「そっついえばお持ちの機材もなにやら大がかりですね！」

「今日はスカートで来ましたが、普段はスニーカーとジーンズです。」

「スカートではいたのなんて2か月ぶりかも。朝早い時もあるしなかなか大変ですね（苦笑）。」

「早い時で何時ぐらいでしょう？」

「学校の始業時間などがあるのですが、八王子の学校に8時という時があります。片づけなどの作業は体力も使うので、男性職員がいればいいと思うのですが、ウチは全員女性なので・・・」

「全員女性なのですか？！」

「はい、一応代表は男性なのですが、オペレーションというか実業

務をしているのは女性です。子供相手の仕事ということもあり、あたりの柔らかい女性が多いようです。」

「子供にとっては実に楽しい授業の時間だと思うのですが、そこまでの準備は大変なのではないでしょうか？」

「そうですね・・・芸術家の方や小学校や幼稚園の先生などと打ち合わせをし、どういうワークショップをしたのかなどを決めていったりするので、その調整などがありますね。」

「アーティストと先生の意向が違ったりすることたまにありますがし・・・」

「どのようなことでしょうか？」

「学校の先生は、例えば学芸会だったら台本がきちんとあって、本番の5日前くらいにはすべての準備が整っていることを希望されることが多いのですが、アーティストさんはアイディア勝負というか、状況に応じて内容を変えていかれたりして、完成するのがギリギリ、という時などがあります。」

「でも先生の多くはアーティストさんを信頼されて任されています。」

「なるほど・・・ワークショップにはいろんな方が関わっていらっしゃるのですね。」

「ワークショップには、私たち職

員だけでなくボランティアの方にも手伝っていただいています。子供が好きな人でアーティストを尊重できる方にいらして頂いていて、皆さんとても熱心です。ボランティアはいつでも大募集中です。」

「素敵な活動ですし結構ボランティアの方も集まるのでは？」

「やはり学生さんが多いですね。でも、普段は普通に仕事をしていらっしゃるって土日のお休みを使ってわざわざいらっしゃる方もいますのでありがたいです。」

「そっですか・・・NPOにお勤めの方の知り合いがあまりいないので興味深いです！」

「ところでピアノはブランドがあるとお聞きしましたが・・・」



チェコの指輪。旅行がお好きだそうです。

「10年ぐらいあまりピアノを触っていませんでした。ピアノを再開するきっかけということもあり先日コミュニティの方に伺いました。」

「とても長らくピアノをお休みされていたとは思えないショッパンでしたが・・・。ピアノはいつ始

められたのですか？

幼稚園時代、仲の良いお友達がピアノを習っていて、同じ先生に習うことになりました。今もそのお友達とは連絡をとりあっていますよ（笑）。

その後はのんびり続けていました。

「今も幼稚園時代のお友達と仲がいいなんてすごいですね！」

「そういえば懇親会で旦那様も音楽好きとお聞きしましたが、ピアノは弾かれるのですか？」

それが全然・・・聞く専門です。家にはものすごい量のCDがありますよ（笑）。

「私の父もCD持ちで、同じ曲でも違うピアニストの演奏のCDが数枚あったりしました。やはりクラシックのCDが多いのですか？」

「いえいえ！ジャンルを問わないのですよ。すごく変なCDも買ってくるんです。」

「変なCD？」

「変なCDその1は、普通、オーケストラなどを聞く場合プロのオーケストラが演奏したCDをかうと思うのですが、主人が以前買ったのは、アメリカの辺境の街のアマチュアのオーケストラの演奏で、音が全然合っていないんです。市民オケがダメとかではないのですが、そういうのを面白がって買ってきます。」

「和音がわからないぐらいでしょうか？」

「そうなんです・・・この和音はなんだろう？みたいな不思議な和音だったりします（笑）。」



10年聴いているショパンの前奏曲のCD

「珍しいですがそういうのも味があつていいかもしれませんね。他にも面白いものを買われるのですか？」

「他はいろんなジャンルを買ってきます。どう考えてもネタとしか思えないものとか。某政治家の名前がついているハウス系のCDとかもあります。」

「そうですね・・・。私はユーチューブ（動画投稿サイト）で見たことがあるのですが、CDをちゃんと買われているのですね・・・。」

「多分買って集めるのが好きなんだと思います。」

「確かに「不思議なCDを買われるのだなあ」と思いますが、でも自分の興味以外のジャンルを聞いてみたりするのはいいかもしれませぬ。」

私は興味のある曲しか聞いて

いないので自分は偏っていると思います。

「そうですね、好奇心旺盛にいろいろ聞いてみるのは面白いかもしれません。弾くのは主にクラシックが多いですが、触れる音楽の幅はマイペースに広がっています。」

「なるほど・・・。ピアノでこれからこんなことをしてみたい、ということはありませんか？」

「昔弾いた曲を再度弾いて解釈を新たに考えたりもしたいですし、特に今はシューベルトに興味があります。しかし、リハビリに時間が掛かりそうです・・・。」

「2、3年後ぐらいにはできれば弦と一緒に演奏したり、連弾できるようになれたらいいなと思っています。」



編集後記



「お勤めのNPOのお話が個人的に大変面白かったので、ピアノのインタビューというより」

「お仕事インタビューになってしまいました（笑）。」

「改めてこの会にはいろんな方にいらして下さっているのだな」と思いました。

「fumufumoさん、お忙しいところありがとうございました！」

今回のしんぶんはいかがでしたか？また次回をお楽しみに♪